

平成11年3月31日

青森県教育庁文化課

三内丸山遺跡対策室
〒030-8540 青森市新町2丁目3-1
TEL (0177) 22-1111 (内5251・2)
FAX (0177) 34-8280

三内丸山遺跡対策室 松原分室
〒030-0813 青森市松原1丁目14-11
TEL (0177) 74-0455
FAX (0177) 74-0456

三内丸山通信

今年度のまとめ

今年の遺跡をふりかえる

平成一〇年度も三内丸山遺跡では、発掘調査や研究による新しい発見やフォーラム・シンポジウム、イベントなど多くの情報発信が行われました。

まず、遺跡の全体像を解明するために三地点の発掘調査を行いました。その結

果、集落がさらに南側に広がることや、北の谷では木製品、植物の種や動物の骨などの有機質の遺物が良い状態で残っていることがわかり、さらに、新しく南北の道路に沿って円形に石を並べたお墓と考えられる環状配石遺構が検出されまし

た。また、三内丸山遺跡をより詳しく解明するために、自然・技術・社会の分野で特別研究が始まりました。

七月一九日には遺跡で文化観光立県宣言が行われ、式典や前夜祭コンサートや翌日の縄文フェスタには合わせて約四万人もの人々が参加しました。縄文フォーラム'98も二〇・二一日の二日間にはわたって開催され、研究者や竹下景子さんらの魅力ある話を楽しみました。

から研究者が参加し、世界の狩猟採集文化と縄文文化について議論しました。一月には東京で縄文のものづくりをテーマにシンポジウムが開かれました。

二月には冬期活用事業が行われ、雪像づくりや土器の復元体験など、冬の遺跡も楽しめました。

今年度も約四八万人の見学者が訪れました。縄文文化を身近に感じられ、楽しめる遺跡としてこれからも整備や活用を進めていく予定です。

寒サニモマケズ

三内丸山遺跡・雪ランド

去る二月一日(木)から一四日(日)まで、冬の遺跡の魅力に触れてもらうことを目的に、「三内丸山遺跡・雪ランド」を開催しました。

雪像作り、縄文ストラックアウトやすべり台をはじめ、大型竪穴住居の中では餅つきを行い、夜は大型掘立柱建物などがライトアップされ、三五〇基のミニかまくらとともに幻想的な姿を見せてくれました。

また、展示室では、土器の復元体験をはじめ様々な

体験学習や映画、紙芝居が行われ、多くの皆さんでにぎわいました。





最新の研究成果まとまる！

特別研究推進事業報告

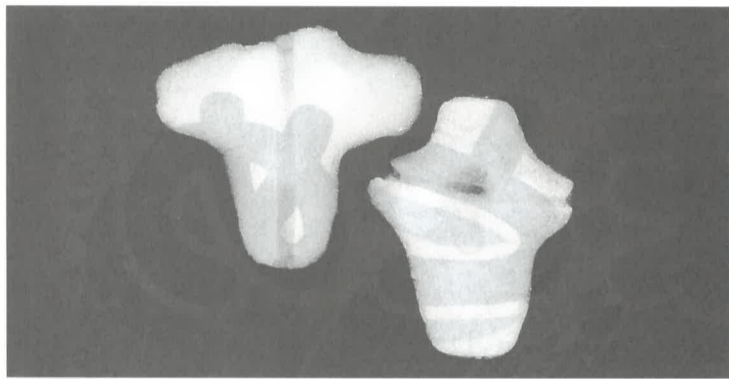
今年度から、さらにくわしく遺跡を解明するために、特別研究を開始しました。自然・技術・社会の三分野で、共同研究は国立歴史民俗博物館や国立民族学博物館と三内丸山遺跡対策室が行っています。公募研究は、研究テーマを全国から募集したものです。

共同研究の自然分野のテーマは「三内丸山遺跡における人と環境の交渉史」です。まず青森平野の縄文時代の地形（特に海岸線の位置）をおおまかに推定しました。また、遺跡内の土に含まれている植物や昆虫等の種類を調べ、土地の使い方をつりかわりを明らかにしました。さらに、それらの時代を調べるため、出土した木材や種子の炭素年代測定を精度の高い方法で行いました。

技術分野のテーマは「三内丸山人の資源利用モデルの構築」です。三内丸山遺跡に住んでいた縄文人は、周辺の自然をどのように利用していたかについての研究です。その結果、漁場は

広く、大きな漁獲高が想定され、クリの実などの食料資源は十分に確保できることがわかりました。また、三内丸山遺跡が最も栄えた頃には、まわりの集落から人が移動してくる傾向がみられます。

社会分野のテーマは「土偶から見た縄文社会」です。三内丸山遺跡からは、全国最多となる一四〇〇点を超える土偶が出土し、遺跡の大きな特徴となっています。しかし、くわしい使用方法や捨て方など不明な点も多くあります。分析の結果



土偶のX線写真（縦と横に穴があいているのが分かります）

果、三内丸山遺跡では盛土の特定の場所に壊して捨てられていたことがわかりました。また、小型の土器や装身具もまつりの道具として使われていたことを推定しました。

また、公募研究の自然分野では、佐藤洋一郎（静岡大学）さんが日本で初めて遺跡から出土したウルシの種子のDNA分析を行い、日本固有のものであることを明らかにしました。

技術分野では、小林正史（北陸学院短期大学）さんが、土器の焼き方や、実際に使った痕跡を分析し、当時の土器づくりの技術と、調理の仕方が「煮る」場合がほとんどであったことを解明しました。

社会分野では、中村大（國學院大学）さんが、お墓の作り方や配置から、当時の縄文社会が階層社会に進んでいる可能性が高いことを指摘しました。

今年もみどろいっぱい

今年も三内丸山遺跡では発掘調査はもちろん、シンポジウム・イベントなど縄文文化をさらに楽しむことができます。

まず、発掘調査は五月から再開される予定です。昨年見つけた環状配石の下から何が見つかるのか大いに楽しみです。特別研究も引き続き行われ、遺跡の解明が進むものと思われ、九月には縄文フォーラム

'99が、一二月には東京でシンポジウムが開催されます。また、縄文フェスタは九月、雪ランドは二月に開催される予定です。

好評だった体験学習は、五月から始まります。月の第二・四土曜日に体験学習館で行われます。ものづくりをとおして、縄文人の生活にふれてみましょう。今年も三内丸山遺跡から目が離せません。

遺跡の総まとめ

三内丸山遺跡報告会

三月二〇日（土）・二七日（土）に県総合社会教育センターで、平成一〇年度三内丸山遺跡報告会が行われました。二〇日は遺跡に関する最新の研究成果が発

表され、二七日は引き続き研究成果と、今年度の発掘調査や海外関連遺跡調査の成果が報告されました。両日ともたくさんの方が訪れ、報告者の話に熱心に聞き入っていました。

発掘調査委員会

三月三〇日（火）、体験学習館で平成一〇年度第三回三内丸山遺跡発掘調査委員会が開催されました。今年度の発掘調査について検討し、さらに今後の中長期的な発掘調査計画がまとめられ、特別研究推進事業など一〇年度の成果が報告されました。



道路あと（白い線の部分）

三内丸山遺跡の ごあんない

見学時間 9:00～16:30
（入場は16:00まで）
ボランティアガイド定時解説
9:00から一時間ごと
（最終は15:30）
交通手段 市営バス
青森駅から運転免許センター行き
三内丸山遺跡前で下車